

みちのくの初夏の風物詩の施設で、木造平家建の馬場部分と木造2階建の事務所
「チャグチャグ馬」が、岩手県盛岡市で毎年6月に開催される。



解体前の盛岡馬検場。「馬検場」の看板が素晴らしい(写真提供:盛岡タイムス)

た。 同市松尾町に、「チャグチャグ馬」と同様に、岩手県が馬産地として栄えたことを象徴する建物があった。それは、「盛岡馬検場」である。

さて、盛岡八幡宮にほど近い、盛岡馬検場は、岩手県が馬の検査及び競りを行うため

華麗な装束をまとった100頭近くの馬が、隣接する滝沢市の鬼越舊前神社から盛岡市中心部に位置する盛岡八幡宮までの約13kmを「チャグチャグ」と鈴の音を鳴らして行進する伝統行事である。この行事は、岩手県の馬事文化を代表すると共に、岩手県が全国有数の馬産地であったことを象徴している。

さて、盛岡八幡宮にほど近い、同市松尾町に、「チャグチャグ馬」と同様に、岩手県が馬産地として栄えたことを象徴する建物があつた。それは、「盛岡馬検場」である。

～文化的歴史的所産を巡る～

残したい情景

第24回 岩手県盛岡市

一般財団法人 日本不動産研究所

5世紀頃に馬飼い

古来から東北は馬産地として知られ、5世紀頃には既に馬飼いが行われていた。

8世紀に大和朝廷が奥州に侵攻した際には、蝦夷(えみし)の将アテルイ率いる強力な騎馬軍団が朝廷軍を圧倒したとい

う。南部藩領であった岩手県は日本在来種の馬の中でも良馬の誉れ高い「南部駒」の供給地として名を馳せた。

南部藩城下町である盛岡には江戸時代初期から幕府や諸藩の馬買付役人が盛んにやってきたことから、171

0年に南部藩は馬を売買する場所を旧馬町(現盛岡市清水町)に指定し、以降、この場所で馬市が開催されることになった。旧馬町で始まった馬市は、明治時代以降、軍用馬の需要が増え、手狭となつた。そこで馬活躍を求めたが、農業の機械化などによつて、馬が活躍する場は限られるようになつた。こうして馬産業が衰退するなか、盛岡馬検場での取引も先細つていつたが、馬市 자체は平成の時代に入るまで開催された。そして、1996年に最後の競り市が行われ、盛岡馬検場が建築された。馬検場を中心に関発されたこの地域は、翌年に新馬町として開町した。

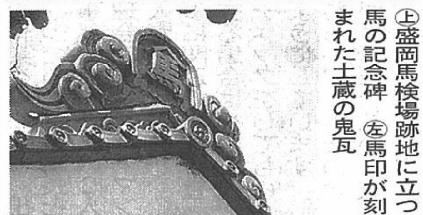
更に規模が大きくなった馬市は、全国から馬喰達が集まる月に解体され

岩手が誇る馬事文化の継承を

軍用から農耕馬へ

100年に南部藩は馬を売買する場所を旧馬町(現盛岡市清水町)に指定し、以降、この場所で馬市が開催されることになった。旧馬町で始まった馬市は、明治時代以降、軍用馬の需要が増え、手狭となつた。そこで馬活躍を求めたが、農業の機械化などによつて、馬が活躍する場は限られるようになつた。こうして馬産業が衰退するなか、盛岡馬検場での取引も先細つていつたが、馬市 자체は平成の時代に入るまで開催された。そして、1996年に最後の競り市が行われ、盛岡馬検場が建築された。馬検場を中心に関発されたこの地域は、翌年に新馬町として開町した。

(上)盛岡馬検場跡地に立つ馬の記念碑 (左)馬印が刻まれた土蔵の鬼瓦



市は、全国から馬喰達が集まつた。翌年に新馬町として開町した。

更に規模が大きくなつた馬市は、全国から馬喰達が集まつた。翌年に新馬町として開町した。

具原敦